

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	キャリア支援	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	4単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	就職準備のための授業です。本科目の中で自分の理想とする職業像をイメージし、就職活動に必須の準備を終了させます。自己分析・企業研究から始まる履歴書完成、エントリーシート準備、面接試験対策など具体的に作業していきます。机上の作業だけでなく、足・目・頭など体を十分に動かして準備していきましょう。			
到達目標	内定取得及び社会人としての基礎を身に付ける			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	現状分析と今後の活動スケジュール		
	2	送付状について、封筒表書き練習、封入方法		
	3	ビジネスメール、電話での問い合わせ、オンライン試験上の注意		
	4	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：ビジネス文書作成トレーニング		
	5	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：ビジネス文書作成トレーニング		
	6	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：ビジネス文書作成トレーニング		
	7	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：次年度生に向けて就活プレゼン作成		
	8	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：次年度生に向けて就活プレゼン作成		
	9	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：次年度生に向けて就活プレゼン作成		
	10	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：次年度生に向けて就活プレゼン作成		
	11	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：次年度生に向けて就活プレゼン作成		
	12	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：暑中見舞いの書き方		
	13	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：名刺交換や来客マナーについて		
	14	未内定者：応募準備と就職試験対策／内定者：名刺交換や来客マナーについて		
15	就職活動振り返りと今後のスケジュール			
授業の進め方・履修の心構え	いよいよ就職活動の本番がスタートです。自身でスケジュールを立て、計画的に進めましょう。応募書類作成や面接練習は早に準備するよう心掛けましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 就職活動の積極性による評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Java応用	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	実 習	
履修区分	必 修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	これまで学習してきたJavaの技術と、本科目を通してより実践的なJavaの技術を用いてオリジナル制作を行います。単にプログラミングを行い制作するだけでなく、実用化も考え不具合を取り除き、ユーザビリティも考慮した作品に仕上げることを目標とします。			
到達目標	Javaを使用し、実用化を目標とした成果物を1から作り上げることが出来る。			
教科書・教材	Java 第3版 実践編 アプリケーション作りの基本／翔泳社			
授業計画	回	内 容		
	1	Java基礎・オブジェクト指向の復習		
	2	Java活用編～GUI～		
	3	Java活用編～コントロールの活用～		
	4	Java活用編～ファイル操作～		
	5	オリジナル制作 (要件定義)		
	6	オリジナル制作 (設計)		
	7	オリジナル制作 (設計)		
	8	オリジナル制作 (コーディング)		
	9	オリジナル制作 (コーディング)		
	10	オリジナル制作 (コーディング)		
	11	オリジナル制作 (コーディング)		
	12	オリジナル制作 (テスト)		
	13	オリジナル制作 (テスト)		
	14	オリジナル制作発表準備		
15	オリジナル制作発表			
授業の進め方・履修の心構え	これまで2年間学習してきたJavaの知識・技術が身に付いていることが前提となります。実習形式の授業なので、解説以外の時間は自主的に計画を立てて制作を進めましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	システム改修	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目ではシステムを構築していきます。要件定義が出来上がっている仕様書をもとに、画面設計、プログラム詳細設計を書き起こし、その通りのコーディングを行います。単体テストや結合テストを十分に行い致命的なバグはないか、何をどうすれば理想的なシステムに近づくのかを学習します。グループ作業に慣れることも含まれます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を考え仕様を作成できる ・グループ作業でプロジェクトの進捗を管理できる ・作業中、バグの発生を予防できる或いはバグ発生時に適切に対処できる 			
教科書・教材	オリジナル			
授業計画	回	内容		
	1	要件定義について取りまとめ、役割分担 (ブレンストーミング)		
	2	要件定義書から外部設計 (画面設計) の書き起こし		
	3	要件定義書から外部設計 (画面設計) の書き起こし		
	4	要件定義書から外部設計 (画面設計) の書き起こし		
	5	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし		
	6	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	7	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	8	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	9	要件定義書から内部設計 (詳細設計) の書き起こし / コーディング		
	10	単体テスト		
	11	単体テスト		
	12	結合テスト仕様作成		
	13	結合テスト実行		
	14	総合的反省		
15	総合的反省			
授業の進め方・履修の心構え	<p>グループ作業での進捗管理、協調体制を築きあがられるようグループ分けを考え、構築中は毎日進捗を管理してできる限り完成できるように調整しながら進める</p>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況及び完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点</p>		<p>C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~Cは合格、Dは不合格</p>	

開講年度	2025年度	科目名	アプリ制作 I	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	本講座は、React Nativeによるモバイルアプリ開発の基礎講座です。 授業を通じて、モバイルアプリ開発の基本概念を理解し、アプリデザインの基礎を習得することが学習目標です。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. モバイルアプリ開発の基本概念を理解し、React Nativeの利用方法を学ぶ 2. JSX、コンポーネント、スタイリングなどの基本構文を理解する 3. React Nativeのフレームワークやコンポーネントを活用し、アプリ機能の実装スキルを習得する 4. デバッグツールやエミュレータを使用し、テストとデバッグを行い品質を確保する方法を学ぶ 5. 要件定義・基本設計、画面設計を行い、アプリの設計や開発の流れを理解する 6. コードの最適化やリファクタリングを通じて効率的なモバイルアプリ開発の技術を身に付ける 			
教科書・教材	オリジナルテキスト 基礎から学ぶReact Native入門			
授業計画	回	内 容		
	1	モバイルアプリ開発の基礎		
	2	TypeScriptの基本 1 TypeScriptの基礎		
	3	TypeScriptの基本 2 TypeScriptの応用		
	4	TypeScriptの基本 3 総合演習		
	5	React Nativeの開発環境構築		
	6	React Nativeの基本、コンポーネントの作成・再利用		
	7	React Hooksの使い方		
	8	画面遷移の実装		
	9	データ永続化と状態管理		
	10	API通信		
	11	アプリ制作 (規定課題 1)		
	12	アプリ制作 (規定課題 2)		
	13	アプリ制作 (自由課題 1)		
	14	アプリ制作 (自由課題 2)		
15	アプリ制作 (自由課題 3)			
授業の進め方・履修の心構え	テキスト並びにそれに準じた課題制作を通じて、モバイルアプリ開発の実践的なスキルを身に付けます。 ・積極的に授業に参加し、知識を吸収する意欲を持ちましょう ・集中して授業内容を理解し、質問や議論に積極的に参加しましょう ・新しい概念や知識に対して柔軟な考え方をもち、理解に時間がかかっても忍耐強く取り組みましょう			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況・内容の質 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	ゲーム制作 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	ゲーム制作Iで身につけた基礎知識と技術を用い、3Dゲーム制作の手法を学習します。制作を行う上で必要な技術の向上とより幅広い知識の定着を図ります。			
到達目標	・基本的な3Dゲーム制作技術の理解及び習得を目標とする。			
教科書・教材	楽しく学ぶ Unity 3D超入門講座／(株)マイナビ出版			
授業計画	回	内 容		
	1	Unity3D概要 操作基本		
	2	スクリプト・移動		
	3	衝突 コライダー・リジッドボデー		
	4	ジャンプとプレイヤー視点 キャラクターの動かし方		
	5	シーンの切り替え・ビルドのしかた		
	6	プレファブ・ナビメッシュ		
	7	アニメーションコントローラー		
	8	点数計算・タイムアップ・などTips		
	9	ファイル管理 FBXインポート・などTips		
	10	課題制作案作成 制作Tips		
	11	オリジナルゲーム課題制作		
	12	オリジナルゲーム課題制作		
	13	オリジナルゲーム課題制作		
	14	オリジナルゲーム課題制作		
15	制作発表及び評価・小テスト			
授業の進め方・履修の心構え	講師による説明後、演習を行います。 基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 小テスト (2) 課題の提出状況および完成度 (3) 出席率80%以上および授業の積極性による評価			
評価基準	S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点		C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	セキュリティ実践演習	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	3単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目では、これまで学んだネットワーク、サーバ、セキュリティの知識を実際にどのように活用するか、実機を用いて学習します。また、サーバ構築やネットワーク設定、Webサービス等におけるセキュリティについても学習することで、実務環境を構築するために必要な知識も習得していきます。</p>			
到達目標	<p>セキュリティ対策を意識したシステム環境を理解する。</p>			
教科書・教材	<p>おうちで学べるセキュリティのきほん/㈱翔泳社</p>			
授業計画	回	内容		
	1	最新のセキュリティトレンド		
	2	セキュリティ事例研究		
	3	セキュリティ事例研究/発表		
	4	インターネットのセキュリティ		
	5	インターネットのセキュリティ		
	6	サーバのセキュリティ、データセンターの仕組み		
	7	サーバのセキュリティ、データセンターの仕組み		
	8	サーバ構築演習		
	9	サーバ構築演習		
	10	サーバ構築演習		
	11	Webサービスへの攻撃手法演習		
	12	Webサービスへの攻撃手法演習		
	13	セキュリティ10大脅威研究		
	14	セキュリティ10大脅威研究		
15	セキュリティ10大脅威研究/発表			
授業の進め方・履修の心構え	<p>教科書やスライドをもとに解説をし、適宜パソコンを使用して演習を行います。成果物については必要に応じて提出してもらいます。</p>			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定試験の点数</p>			
評価基準	<p>S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点</p>		<p>C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	HTML応用 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2 単位	
学 年	3年次	時間数	60 時間	
開講学期	前 期	授業形態	実 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	PHPはサーバーサイドのWebサイトを構築する言語として多く用いられています。PHPの言語について学び仕組みを理解します。PHPに組み込めるDBであるPostgreSQLについても学び、仕組みを理解します。PHPとDBを連携させてWebアプリケーションを作成する方法を学びます。			
到達目標	PHPとPostgreSQLを理解し、一人でWebアプリケーションを作成できる。			
教科書・教材	講師オリジナルPDF教材			
授業計画	回	内 容		
	1	Website構築のためのプログラミング言語PHPについて～開発環境構築		
	2	PHPについて～変数・流れ制御文・配列・連想配列・関数		
	3	PHPについて～フォーム処理・定義済み配列		
	4	PHPについて～ファイル処理・フォトブログ構築課題		
	5	PHPについて～ファイル処理・フォトブログ構築課題		
	6	PostgreSQLについて～DBのPostgreSQLの環境構築とPHPとの連携		
	7	PostgreSQLについて～DBへのデータの挿入・編集・閲覧		
	8	PostgreSQLについて～DBへのデータの挿入・編集・閲覧		
	9	PHPとDBを用いたメッセージ投稿サイト作成		
	10	PHPとDBを用いたメッセージ投稿サイト作成		
	11	単位認定課題①／PHPとDBを用いたフォトブログ構築課題		
	12	単位認定課題②／PHPとDBを用いたフォトブログ構築課題		
	13	単位認定課題③／PHPとDBを用いたフォトブログ構築課題		
	14	単位認定課題④／PHPとDBを用いたフォトブログ構築課題		
15	単位認定課題⑤／PHPとDBを用いたフォトブログ構築課題			
授業の進め方・履修の心構え	授業PDFに沿ってPHPの文法や仕組みを学んでいきます。サーバーサイドならではの動きの仕組みを理解して、DBと連携しWebアプリケーションを作成することができるのが目標です。エラーなどに自分の力で対処する方法を学びます。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 単位認定課題による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	グループワーク II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	前期	授業形態	実習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	総合制作を間近に控えたクラスを対象に開講。システムや作品を作り上げるために学年を越えて意思交換、意見交換をスムーズに行うために簡単なグループワーク（チーム制作）を通して学ぶことを目的とします。			
到達目標	簡単なグループワークを通して他学年との交流深め、他者との意思交換できる力を身につける。 1. 開発共有ツール（Git）の知識を身につける。 2. 他学年との意思交換、意見交換を行う。 3. チームで1つのもの作成を行う。			
教科書・教材	オリジナル			
授業計画	回	内容		
	1	ガイダンス、Git入門①		
	2	Git入門②		
	3	設計、作成①		
	4	設計、作成②		
	5	設計、作成③		
	6	設計、作成④		
	7	設計、作成⑤		
	8	プレゼン		
	9	設計、作成①		
	10	設計、作成②		
	11	設計、作成③		
	12	設計、作成④		
	13	設計、作成⑤		
	14	設計、作成⑥		
15	プレゼン			
授業の進め方・履修の心構え	他学年との交流を行い、チームの在り方を学ぶ。最低限の礼儀を守りつつ年齢性別を越えて意見交換をしてもらいたい。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) グループワーク、プレゼンによる評価			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	国家試験対策Ⅳ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	「国家試験対策Ⅲ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に付けていきます。特に基本情報技術者試験の修了認定試験合格者向けに科目Bの問題の演習を中心に行います。			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材	基本情報技術者科目B問題集／(株)インフォテック・サーブ 基本情報技術者科目B模擬試験／TAC(株)			
授業計画	回	内容		
	1	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	2	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	3	科目B問題の内容理解と練習 (データ構造)		
	4	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	5	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	6	科目B問題の内容理解と練習 (アルゴリズム)		
	7	小テスト		
	8	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	9	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	10	科目B問題の内容理解と練習 (プログラミング)		
	11	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	12	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	13	科目B問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	14	小テスト		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	「国家試験対策Ⅲ」を履修したことが条件となります。今までの学習の結果から、自分の学ぶべき分野を明確にし、対策を行うことが大切です。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 小テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 模擬試験の点数			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	AIプログラミング II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	3年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	AIプログラミング I で学んだPythonの技術を用いてオリジナル制作を行います。単にプログラミングを行い制作するだけでなく、2年間で学んできた様々な科目の内容も踏まえて、作品を考えて作成することを目標とします。			
到達目標	Pythonを使用し、成果物を1から作り上げることが出来る。			
教科書・教材	やさしいPython / SBクリエイティブ			
授業計画	回	内 容		
	1	ガイダンス、環境構築		
	2	機械学習①		
	3	機械学習②		
	4	自然言語処理		
	5	画像処理		
	6	音声処理		
	7	強化学習		
	8	オリジナル制作 (要件定義)		
	9	オリジナル制作 (設計)		
	10	オリジナル制作 (コーディング)		
	11	オリジナル制作 (コーディング)		
	12	オリジナル制作 (コーディング)		
	13	オリジナル制作発表準備		
	14	オリジナル制作発表		
15	オリジナル制作発表			
授業の進め方・履修の心構え	AIプログラミング I を受講していることが前提となります。実習形式の授業なので、解説以外の時間は自主的に計画を立てて制作を進めましょう。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準 S~C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	動画制作	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	演習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	AdobePremiereとAfterEffectsの使い方の基礎を学びます。			
到達目標	基本的な動画制作の理解及び習得を目標とする。			
教科書・教材	PremierePro & AfterEffects ムービー制作の教科書 / 技術評論社			
授業計画	回	内容		
	1	A&P初期設定 ファイルを読み込む 保存する		
	2	Premiereの基本 シーケンスを並べる		
	3	トランジションとエフェクト		
	4	テロップ BGMを設定		
	5	オーディオ編集 動画出力する		
	6	AfterEffectsの基本 フッテージを読み込む		
	7	テキストアニメーション		
	8	シェイプとマスク		
	9	レイヤー エフェクト		
	10	動画出力 メディアエンコーダー		
	11	オリジナルTips Premiere AEとの連携		
	12	オリジナルTips AfterEffects PS AIとの連携		
	13	習得技術を使った動画制作1		
	14	習得技術を使った動画制作2		
15	作品発表提出および評価			
授業の進め方・履修の心構え	講師による解説やデモンストレーション後、実践演習を行います。基礎技術定着の為に十分な復習を行うことを期待します。			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点		C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	グラフィック応用 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	3年次	時間数	30 時間	
開講学期	前 期	授業形態	実 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	「感性をくすぐるデザイン」 デザインソフト (Photoshop・Illustrator) の使い方を通して学習してきた、レイアウトの基本ルール、デザイン手法を基本に、表現力をさらに高め、見る人の「感性をくすぐる」より効果的なデザイン作品 (静止画・動画) づくりを行います。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの基礎知識やルールの理解 ・自分の表現したいもの、伝えたいものを効果的にデザインできる能力を高める 			
教科書・教材	なるほどデザイン 目で見て楽しむ新しいデザインの本。/エムディエヌコーポレーション			
授業計画	回	内 容		
	1	Guidance (授業の進め方・効果的なデザインとは)		
	2	五感で感じたものを言語化する		
	3	Poster Design① (企画をデザインする)		
	4	Poster Design② (構想をイメージ化する)		
	5	Poster Design③ (デザインに埋め込む物語)		
	6	Poster Design発表会 (クリティカル・シンキング)		
	7	情報というバイアス		
	8	デザインにおけるアクセシビリティ		
	9	映像制作の基本と応用		
	10	オリジナル作品制作①		
	11	オリジナル作品制作②		
	12	オリジナル作品制作③		
	13	オリジナル作品制作④		
	14	惹きつけるプレゼンテーションの仕方		
15	作品発表会			
授業の進め方・履修の心構え	デザインの前提となる基本ルールを理解し、一つ一つのデザインに根拠を持たせるようにしますことを学びます。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 課題の提出状況および完成度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) オリジナル制作物による評価			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	総合制作	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	8単位	
学年	3年次	時間数	240時間	
開講学期	後期	授業形態	実習	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、これまでに学んだことの集大成です。プロジェクトを立ち上げてシステム開発に取り組みます。チームメンバーとコミュニケーションをはかり、協力してシステムを完成させます。同時にシステム開発工程についても理解を深めていきます。</p>			
到達目標	<p>本学でこれまで履修した科目で学んだ知識・技術を活かし、チームで成果物を完成させる。</p>			
教科書・教材	特になし			
授業計画	回	内容		
	1	ガイダンス・プロジェクトの概要説明・制作物の決定		
	2	制作 (要件定義書作成)		
	3	制作 (要件定義書作成)		
	4	制作 (仕様書作成)		
	5	制作 (仕様書作成)		
	6	制作 (仕様書作成)		
	7	制作 (コーディング)		
	8	制作 (コーディング)		
	9	制作 (コーディング)		
	10	制作 (コーディング)		
	11	制作 (単体テスト)		
	12	制作 (単体テスト)		
	13	制作 (結合テスト)		
	14	制作 (結合テスト)		
15	制作発表準備・制作発表			
授業の進め方・履修の心構え	<p>毎回の始まりと終わりにチームミーティングを行います。 チーム制作の為、報告・連絡・相談を意識して制作に努める必要があります。</p>			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) プロジェクトの参加状況および貢献度 (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (3) 制作物および制作発表による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100~90点 A : 89~80点 B : 79~60点</p>		<p>C : 59~50点 D : 49点以下 ※評価基準S~Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	キャリアデザイン	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	30時間	
開講学期	後期	授業形態	講義	
履修区分	必修	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	社会人として働くうえで、多種多様なビジネスシーンにおける様々なビジネスマナーが存在します。本科目では、社会人としてより早く自立し、円滑に仕事ができるよう知識・スキルを学びます。			
到達目標	卒業後に社会人として、自信をもって行動できる基礎を身に付ける。			
教科書・教材	改訂新版 入社1年目ビジネスマナーの教科書／プレジデント社オリジナル			
授業計画	回	内容		
	1	ガイダンス、社内のビジネスマナー1～社会人としてあるべき姿		
	2	社内のビジネスマナー2～社内ルール		
	3	社内のビジネスマナー3～仕事の仕方		
	4	第7章 報告・連絡・相談の基本		
	5	第8章 来客対応の基本		
	6	第9章 他社訪問の基本		
	7	確認テスト		
	8	第12章 会食の基本		
	9	社会人スキルの基礎		
	10	ディスカッション		
	11	第13章 基本的な慶弔マナー		
	12	第14章 基本的な慶弔マナー		
	13	OJTの基礎		
	14	ディスカッション		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	ビジネスマナーに続く科目になります。社会人としての振る舞いを身に付けましょう。毎週、授業開始10～15分程度で、前週に学んだことの振り返りとして小テストを行います。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	有	試験形式	文書試験
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	(1) 出席率80%以上および授業の積極性による評価 (2) 課題の提出状況、小テスト (3) 単位認定試験の点数			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

開講年度	2025年度	科目名	プレゼンテーションⅡ	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	2単位	
学年	3年次	時間数	60時間	
開講学期	後期	授業形態	実習	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目では、「プレゼンテーションⅠ」で学んだ内容を基に、プレゼンテーションの本質を学んでいきます。</p> <p>プレゼンテーションの本質を学び、仕事・日常生活における人を動かす術を学びます。</p>			
到達目標	総合制作発表で行うプレゼンテーションの資料作成と発表準備を行う。			
教科書・教材	いちばんやさしい資料作成&プレゼンの教本 人気講師が教える「人の心をつかむプレゼン」のすべて【第2版】/インプレス			
授業計画	回	内容		
	1	科目説明、プレゼン力演習1		
	2	プレゼン力演習2		
	3	プレゼンテーションの本質を①		
	4	プレゼンテーションの本質を②		
	5	人を動かすプレゼンテーション①		
	6	人を動かすプレゼンテーション②		
	7	実践演習1		
	8	実践演習2		
	9	プレゼンテーション資料作成 前編		
	10	プレゼンテーション資料作成 後編		
	11	総合演習1		
	12	総合演習2		
	13	総合演習3		
	14	練習で自信をつける、総合演習4		
15	総合演習5			
授業の進め方・履修の心構え	「プレゼンテーションⅠ」を履修したことが条件になります。ディベートを通して自身の意見を発信し、協調性を高めることが重要です。			
目標資格				
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	-
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況及び完成度</p> <p>(2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p> <p>(3) 総合制作発表におけるプレゼンテーションでの評価</p>			
評価基準	S：100～90点 A：89～80点 B：79～60点		C：59～50点 D：49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	アプリ制作 II	
科目基本情報				
学科区分	ITエンジニア学科	単位数	1 単位	
学 年	2年次	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	演 習	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本講座はモバイルアプリ開発分野を学ぶ基礎講座です。</p> <p>現代のモバイルアプリ開発では大きく分けてデバイスOSに依存するネイティブアプリとデバイスOSに依存しないハイブリッドアプリの2種類が存在します。</p> <p>本講座では、ネイティブアプリの開発を通して、ハイブリッドアプリ開発との相違を理解する事が学習目標です。</p>			
到達目標	<p>1.ハイブリッドアプリ開発との相違を理解する。</p> <p>2.ネイティブアプリの開発プラットフォームであるXcodeとSwift UIを使用し、ネイティブアプリ(iOSアプリ)の開発方法を取得する。</p>			
教科書・教材	たった2日でマスターできるiPhoneアプリ開発開発集中講座/ソシム(株)			
授業計画	回	内 容		
	1	ネイティブアプリとは		
	2	SwiftおよびSwift UIとは		
	3	Xcodeの使い方		
	4	制作課題1：じゃんけんアプリ(Swiftの基本を学ぶ)		
	5	制作課題1：じゃんけんアプリ(Swiftの基本を学ぶ)		
	6	制作課題1：じゃんけんアプリ(Swiftの基本を学ぶ)		
	7	制作課題2：楽器アプリ(音の扱い方を学ぶ)		
	8	制作課題2：楽器アプリ(音の扱い方を学ぶ)		
	9	制作課題2：楽器アプリ(音の扱い方を学ぶ)		
	10	制作課題3：マップ検索アプリ(マップAPIの使い方を学ぶ)		
	11	制作課題3：マップ検索アプリ(マップAPIの使い方を学ぶ)		
	12	制作課題3：マップ検索アプリ(マップAPIの使い方を学ぶ)		
	13	制作課題4：タイマーアプリ(画面遷移とデータの永続化を学ぶ)		
	14	制作課題4：タイマーアプリ(画面遷移とデータの永続化を学ぶ)		
15	制作課題4：タイマーアプリ(画面遷移とデータの永続化を学ぶ)			
授業の進め方・履修の心構え	<p>テキスト並びにそれに準じた課題制作を通して、モバイルアプリ開発のスキルを身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加し、知識を吸収する意欲を持ちましょう ・集中して授業内容を理解し、質問や議論に積極的に参加しましょう ・新しい概念や知識に対して柔軟な考え方をもち、理解に時間がかかっても忍耐強く取り組みましょう 			
目標資格	特になし			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 課題の提出状況および完成度</p> <p>(2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S：100～90点</p> <p>A： 89～80点</p> <p>B： 79～60点</p>		<p>C：59～50点</p> <p>D： 49点以下</p> <p>※評価基準S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	基本情報技術者受験対策講座Ⅰ	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	全学年共通	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。科目A試験及び、科目B試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	科目A試験問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	2	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報処理システム)		
	3	科目A試験問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	科目A試験問題の内容理解と練習 (データベース)		
	5	科目A試験問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	7	科目A試験問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略)		
	8	科目A試験問題の内容理解と練習 (データ構造とアルゴリズム)		
	9	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	10	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	11	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	12	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	13	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	14	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	科目A試験免除保持者は科目B試験問題を、未保持者は科目A試験・科目B試験両方に取り組みます。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	応用情報技術者受験対策講座Ⅰ	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2単位	
学年	全学年共通	時間数	30時間	
開講学期	前期	授業形態	講義	
履修区分	選択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	<p>応用情報技術者試験合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (基礎理論)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (コンピュータシステム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (技術要素・開発技術)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (システム戦略・経営戦略)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略・コンサルティング)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (プログラミング・アルゴリズム)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (システム開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (システム監査)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>応用情報技術者試験</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	基本情報技術者受験対策講座 II	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。科目A試験及び、科目B試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	基本情報技術者試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	科目A試験問題の内容理解と練習 (ハードウェア)		
	2	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報処理システム)		
	3	科目A試験問題の内容理解と練習 (ソフトウェア)		
	4	科目A試験問題の内容理解と練習 (データベース)		
	5	科目A試験問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	6	科目A試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	7	科目A試験問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略)		
	8	科目A試験問題の内容理解と練習 (データ構造とアルゴリズム)		
	9	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	10	科目B試験問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	11	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	12	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	13	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
	14	科目B試験問題の内容理解と練習 (アルゴリズムとプログラミング)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	科目A試験免除保持者は科目B試験問題を、未保持者は科目A試験・科目B試験両方に取り組みます。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。			
目標資格	基本情報技術者試験			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点		C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	応用情報技術者受験対策講座 II	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、情報処理推進機構応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。午前試験及び、午後試験の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	<p>応用情報技術者試験合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	午前問題の内容理解と練習 (基礎理論)		
	2	午前問題の内容理解と練習 (コンピュータシステム)		
	3	午前問題の内容理解と練習 (技術要素・開発技術)		
	4	午前問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	5	午前問題の内容理解と練習 (システム戦略・経営戦略)		
	6	午前問題の内容理解と練習 (企業と法務)		
	7	午後問題の内容理解と練習 (情報セキュリティ)		
	8	午後問題の内容理解と練習 (経営戦略・情報戦略・コンサルティング)		
	9	午後問題の内容理解と練習 (プログラミング・アルゴリズム)		
	10	午後問題の内容理解と練習 (ネットワーク)		
	11	午後問題の内容理解と練習 (データベース)		
	12	午後問題の内容理解と練習 (システム開発)		
	13	午後問題の内容理解と練習 (マネジメント)		
	14	午後問題の内容理解と練習 (システム監査)		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>応用情報技術者試験</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	Javaプログラミング受験対策講座	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、サーティファイ主催Javaプログラミング能力認定試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行います。各級位の出題分野ごとの出題範囲から、問題の難易度や出題傾向を把握するとともに、自身の得意分野、苦手分野の把握と対策を行うことで、より効果的に学習を進めます。</p>			
到達目標	Javaプログラミング能力認定試験合格レベル			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習 (式と演算子)		
	2	問題の内容理解と練習 (条件分岐)		
	3	問題の内容理解と練習 (繰り返し)		
	4	問題の内容理解と練習 (配列)		
	5	問題の内容理解と練習 (メソッド)		
	6	問題の内容理解と練習 (クラスとインスタンス)		
	7	問題の内容理解と練習 (継承)		
	8	問題の内容理解と練習 (インターフェース)		
	9	問題の内容理解と練習 (多様性)		
	10	問題の内容理解と練習 (カプセル化)		
	11	問題の内容理解と練習 (クラスライブラリ)		
	12	問題の内容理解と練習 (例外)		
	13	問題の内容理解と練習 (スレッド)		
	14	問題の内容理解と練習 (GUI)		
	15	総まとめ		
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。分からない問題は自分で実際にプログラミングし、実行結果を確認して理解を深めましょう。</p>			
目標資格	Javaプログラミング能力認定試験1～3級			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～Cは合格、Dは不合格</p>	

開講年度	2025年度	科目名	MCP受験対策講座	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行います。グレードごとに分かれた試験の問題難易度や出題傾向を理解し、講義形式で試験対策を行います。</p>			
到達目標	<p>マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習（モビリティ）		
	2	問題の内容理解と練習（モビリティ）		
	3	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	4	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	5	問題の内容理解と練習（クラウド）		
	6	問題の内容理解と練習（データ）		
	7	問題の内容理解と練習（データ）		
	8	問題の内容理解と練習（データ）		
	9	問題の内容理解と練習（データ）		
	10	問題の内容理解と練習（生産性）		
	11	問題の内容理解と練習（App Builder）		
	12	問題の内容理解と練習（App Builder）		
	13	問題の内容理解と練習（ビジネスアプリケーション）		
	14	問題の内容理解と練習（ビジネスアプリケーション）		
15	総まとめ			
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S：100～90点 A： 89～80点 B： 79～60点</p>		<p>C：59～50点 D： 49点以下 ※評価基準S～Cは合格、Dは不合格</p>	

授業計画 (シラバス)

札幌情報未来専門学校

開講年度	2025年度	科目名	MOS受験対策講座	
科目基本情報				
学科区分	全学科共通	単位数	2 単位	
学 年	全学年共通	時間数	30 時間	
開講学期	後 期	授業形態	講 義	
履修区分	選 択	教員の実務経験	有	
授業・科目情報				
学習目的	<p>本科目は、マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist) の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行います。各オフィスソフトでグレードごとに分かれた試験の問題難易度や出題傾向を理解し、講義形式で試験対策を行います。</p>			
到達目標	<p>マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist) 合格レベル</p>			
教科書・教材				
授業計画	回	内 容		
	1	問題の内容理解と練習 (Word)		
	2	問題の内容理解と練習 (Word)		
	3	問題の内容理解と練習 (Word)		
	4	問題の内容理解と練習 (Word)		
	5	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	6	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	7	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	8	問題の内容理解と練習 (Excel)		
	9	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	10	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	11	問題の内容理解と練習 (PowerPoint)		
	12	問題の内容理解と練習 (Access)		
	13	問題の内容理解と練習 (Access)		
	14	問題の内容理解と練習 (Access)		
	15	問題の内容理解と練習 (Access)		
授業の進め方・履修の心構え	<p>出題分野ごとに得点率を把握し、自分の得意、不得意な分野を明確にすることが大切です。制限時間以内に解くことも心掛けましょう。</p>			
目標資格	<p>マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS : Microsoft Office Specialist)</p>			
試験の実施方法	単位認定試験の有無	無	試験形式	—
成績評価方法 ※具体的に記入のこと	<p>(1) 授業中に実施する確認テスト (2) 出席率80%以上および授業の積極性による評価</p>			
評価基準	<p>S : 100～90点 A : 89～80点 B : 79～60点</p>		<p>C : 59～50点 D : 49点以下 ※評価基準 S～C は合格、D は不合格</p>	